



進路だより

揖斐特別支援学校

キャリア支援部 第4号



～ 未来へはばたくみなさんへ ～

令和7年度 9月発行

「時は来た！それだけだ」

9月に入り、まだまだ暑い日が続きますが、10月には第2回現場実習と校内作業実習が始まります。高等部2年生のみなさんにとっては、初めて2週間の長期実習になります。また、高等部3年生のみなさんは、最後の現場実習に臨むことになります。さて、冒頭（タイトル）のメッセージは、**岐阜県土岐市出身のプロレスラー橋本真也さん**（故人）の言葉として有名です。

今から35年前、闘魂三銃士として名を馳せた橋本真也・蝶野正洋が、アントニオ猪木・坂口征二組とのタッグマッチ戦前の控室で生まれた名言です。カウント2、9からの逆転勝ちがプロレスの醍醐味です。「勝ちたい」ならば、残された時間の中で「勝つためには何を、どのように、どれ位やればよいか」を自分自身で見極め、準備をしてきたからこそ、“**後は、自分の力を信じるだけ**”の思いが伝わってきます。（※試合は、延髄斬りでアントニオ猪木が蝶野正洋から勝利。「1・2・3ダーッ!!」の名言もこの日に誕生しました）

人生は決断の連続です。決断を他者に委ねてはいけません。「この実習先でいいのだろうか？」「この仕事、自分に合っているのか？」悩みは尽きませんが、私の尊敬するアントニオ猪木さんの言葉を借りるなら、自分で決断した後は「**迷わずやるだけ**」です。みなさんの健闘を祈ります。きっと天国からアントニオ猪木さんも、「**道はどんなに険しくとも、笑いながら歩こうぜ！**」とメッセージを贈っていますよ！！

夏季休業中の7月31日（木）に、進路研修会を当校の体育館で実施しました。今年度は、株式会社OKBパートナーズの可児 公明 社長に「在学中から考える社会自立や社会参加に向けた取組み～家庭・学校・社会が就労に向けてそれぞれ連携した支援を～」について、講演をしていただきました。

今回の講演の目的は、以下に示す3つ（①家庭や学校で取り組むキャリア教育について理解を深める。②高等部卒業後、社会で自立する力について学び、今からできることは何かを考える。③自立に向けて、家庭や学校、社会全体での役割は何かを考え、連携して取り組むことの大切さを学ぶ。）について学びを深めることでした。そのため、職員だけでなく、小学部から高等部の保護者の方にも参加希望者を募りました。当日は、10名程度の保護者の方も参加され、学びの多い研修会になりました。



◆採用から定着に向けて、株式会社OKBパートナーズが大切にしていることを伝えてくださる可児社長様

裏面に続きます！



◆職員との意見交換会での様子。職員から沢山の質問があり、活発な意見交換会になりました。

現在の法定雇用率は2.5%で、来年7月には2.7%にまで段階的に引き上げられる予定になっていますが、既に株式会社OKBパートナーズでは、2.89%の雇用率を達成しています。企業の支援体制の充実もあり、今までに離職者はほとんどなく、定着につながっています。

◆株式会社OKBパートナーズさんが求める人材とは◆

- ①明るく元気なあいさつができる人
- ②相手の話をきちんと聞くことができる人
- ③報告・連絡・相談ができる人
- ④仕事に意欲を持って取り組むことができる人
- ⑤マナーやルール、約束事を守ることができる人
- ⑥きちんとした生活を送ることができる人

現場実習を通じて、実習生に6項目が備わっているかを確認し、評価しているそうです。

◆「企業就労へのステップ&チャレンジ」について◆

企業に就労するために、家庭と学校が情報を共有し、連携して取り組むことが大切！

～自己肯定感を上げるために必要なこと～

① 本人の自己肯定感を下げない工夫

得意なこと、苦手なことを本人・家族・学校で共有し、周りの人が、特性を理解すること。

② 環境を整える

本人の居場所をつくる：「自分が大切にされている幸せ」を実感できる環境。

本人に対し、何を認め、何を認めないかを明確に伝える。

本人のために、家庭・学校が良好な関係を構築すること。

～就労に向けて考えていくこと～

① 本人の特性に応じた就労先の選択

現場実習は良い機会：得意なこと、苦手なことに挑戦し、自分の特性を知る。

働くことを通じて、人の役に立つことを実感：自己肯定感の向上！

家庭で就労について話し合いの機会をもつ：学校や支援機関との相談も大切！

② 本人の自立に繋げる力をつける

「相談する力」：困ったことを自分から伝える。

「自分で決める力」：人生は選択の連続。親亡き後、相談力と自己決定力が必要！

「自分らしい生き方」：自分ができること、自分がやりたいと思うことを見つけ、行動できる力を身に付ける。